

食料・エネルギーの「地産国消」に貢献する

社会情勢の大きな変化、SDGsの潮流の中で、建設業界では「新4K」や「ESG」の取組が焦眉の急となっており、地域課題の解決、社会貢献の観点が重要視されつつある。このため、会員各社が関係機関との連携・協力を図りながら行っている食料・エネルギーの「地産国消」の取組を紹介し、地域、社会貢献に関する行政とのパートナーシップの深化を図る。

vol.5

J A 紀の里との連携協定による農産物の販売促進と地域活性化の取り組み

株式会社竹中土木 京都営業所 所長 新井 俊行

はじめに

竹中土木は、土木專業ゼネコンとして、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、「人と地球の架け橋に」をコーポレートメッセージとしてCSRビジョンを策定し、企業の社会的責任を着実に遂行しながらサステイナブルな社会の実現をめざしています。CSRビジョンの目標として、「地球環境を守る」、「地域社会に貢献する」、「顧客の信頼を得る」、「多様な人格・個性を尊重する」、「公平・公正な事業活動を推進する」の五項目を掲げ、多様なステークホルダーとの対話を深めながら事業活動を推進しています。

今回ご紹介するのは、当社が近畿農政局から受注した国営和歌山平野農地防災事業・千旦放水路工事

の実施に際して、J A 紀の里と連携協定を結び農産物の販売促進と地域活性化に取り組む活動です。発注者である近畿農

政局和歌山平野農地防災事業所、事業の受益者である農家を組合員とするJ A 紀の里、地域住民、一般消費者、当社の従業員など幅広いステークホルダーと連携して、「地域社会に寄り添った事業活動及び社会貢献



写真1 発進立坑から推進管を挿入

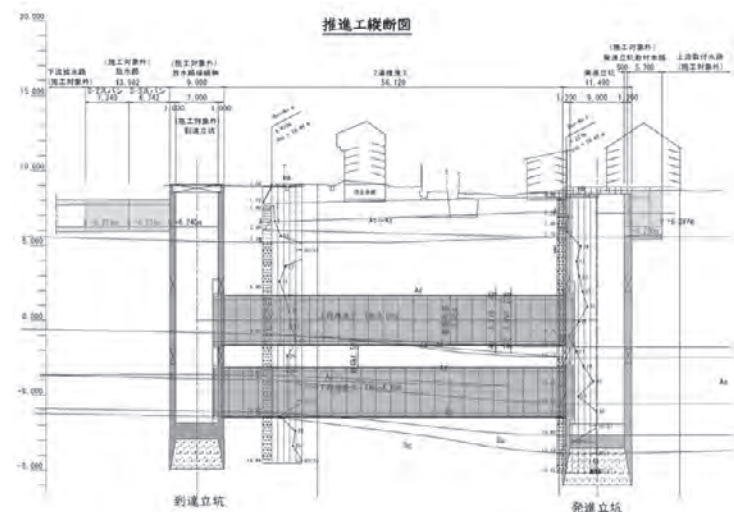


図1 推進工断面図

活動により、地域社会の持続的発展に寄与する」という当社のCSR活動の一環として実施しています。

国営和歌山平野農地防災事業と千旦放水路工事

国営和歌山平野農地防災事業は和歌山県北部の紀の川流域約四、三〇〇haの農地（水田、畑地、果樹園）を対象として、近年の気候変動による降雨の激甚化や都市化の進展による流出率の増大に起因して増えている農地の洪水・湛水被害の軽減を目的としています。事業内容は、農地・農業水利施設の排水能力

を回復するため、排水路、排水機場、排水樋門、洪水調整池の改修・新設など多岐にわたっています。

当社は、紀の川の千旦地点に計画排水量一・六八m³/sを放水する千旦放水路（その2、その3）工事を受注し（工期：令和三年度～令和六年度）、工事を実施しているところです。千旦放水路は、市道横断と狭隘な住宅街を推進管で通過する水路工事です。排水量が大きいため、内径九m、深さ一九mの発進・到達立坑二基、全国でも前例が一例しかない内径二・八m、延長五六mの上下配置による二連の大口径推進工（泥土圧式推進工法）が採用されています。（図1、写真1）



写真2 連携協定調印式（JA紀の里代表理事組合長と竹中土木大阪本店長）

JA紀の里との連携協定

和歌山平野は、古代から農業が盛んな地域ですが、近年は都市近郊の立地を生かした水稻、野菜、果樹の多様な農業が展開しています。特に柑橘類、梅、カキ、モモ、キウイフルーツなどの果樹生産で全国有数の産地となっています。また、水田の畑作利用により、キャベツ、白菜などの野菜生産のニーズも高まっていることから、国営農地防災事業による農地の洪水・湛水被害の防止は、今後の地域農業の安定・発展に不可欠となっています。

JA紀の里は、和歌山平野農地防災事業の受益地である紀の川市、岩出市を事業区域とする広域農業協同組合で、農業の生産・加工・販売を一体的に手掛ける六次産業化に積極的に取り組んでいます。事業区域で生産される多様な農産物を消費者にダイレクトに販売する農産物直売所「めつけもん広場」を開設し、年間販売額二五億円（令和二年度実績）を売り上げるなど人気を博し、県外からも多くの消費者を呼び寄せています。

和歌山平野農地防災事業は、地域の防災・減災に貢献し、農業の安定と地域住民の安全・安心に貢献する事業であることから、当社は、受注した千旦放水路工事の実施に合わせて、地域の農業振興や地域活性化に貢献できる活動として、JA紀の里と連携して地域農産物の販売促進に協力できないかと考えました。当社大阪本店の職員に紀の川市出身でJA紀の里

の組合員の家族が在籍していたことも大きな後押しとなり、二〇二二年十一月、当社は、JA紀の里と地域農産物の消費拡大活動に関する連携協定を結び、農産物の販売促進に協力していくこととなりました。当社はこの連携協定に基づいて、紀の川地域の農産物のPR活動を行い、販路の拡大や地産国消への協力を行っています。（写真2）

PRポスターの製作とJA紀の里直売所のネット通販への協力

農産物のPRポスターの製作に当たっては、営業部門と総務部門の関係者及び女性社員の意見も取り入れながらJA紀の里担当者と色々な意見を出し合い、約二〜三ヶ月間打合せを重ね、ネット通販用のQRコード付きの農産物PRポスターを製作しました。（写真3）

このQRコードからはJA紀の里直売所（めつけ

写真3 PRポスター

もん広場）が扱う新鮮な農産物や加工品を一品から購入することができる。また、便利な月替わりの定期便も用意されており、職員やその家族、また贈答品等にも利用されています。

このPRポスターは当社大阪本店管内の事業所・作業所約二五か所に掲示（大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山・滋賀・福井・岐阜・香川・徳島の二〇府県）するとともに、社内報への掲載により広くPRに努めています。（写真4）

竹中グループビル内でマルシェを開催

二〇二二年七月、大阪にある竹中グループビル内に催事スペースを設け、JA紀の里によるマルシェ



写真4 工事現場での掲示の状況



写真5 マルシェ PRポスター

を開催し、地域農産物の直売会を行いました。JA紀の里直売所から当社向けの割引商品も提供をして頂き、当社の社員・家族の食環境の向上や食育の推進を図ることが出来ました。

また、こうした取り組みは社員やその家族に大変好評であったため、その後も年間約三〜四回のペースでマルシェを開催しており、季節の果物（桃、イチゴ、柑橘類）をメインに各種野菜や加工品等も販売して頂き、グループ全体としての取り組みとして広がっています。（写真5、6）

取り組みの効果

今回の取り組みでは、連携協定締結時とマルシェ



写真6 マルシェの状況



写真7 新聞報道（連携協定締結時）



写真8 新聞報道（マルシェ開催時）日本農業新聞

開催時にマスコミによる報道があり、JA紀の里と当社の地域農産物販売促進と地域活性化の取り組みのPRができたと思います。また、この取り組みのきっかけとなった和歌山平野農地防災事業のPRにも貢献できたと思います。(写真7、8)

JA紀の里からは販路の拡大による販売促進が見込めるとのコメントを頂き、JA及び当社の双方にメリットのあるウィンウィンの取り組みとなっており、連携協定は、毎年度の自動更新としており、引き続き協力を継続していく方針です。

こうした地域農産物の消費拡大に貢献する取り組みは、全社的な広がりを見せています。東北支店においては、展示会出展時に竹中土木のブースで現地の地域特産品(キノコ類)のPRポスターを掲示し、特産品のノベルティとしての配布も行いました。名古屋支店は、自治体が行っている地産国消を推進する運動(いいともあいちネットワーク)の会員となり、支店内に地域農産品のポスターを掲示しました。また、支店内の災害用備蓄食料を地域産の食料品で調達しました。さらに、広島支店においては、地域特産品(米)のPR活動に参加協力し、支店受付にPRコーナーを設けるとともに、その活動を当社のHPに掲載しました。

小学生向けの現場見学会を開催

千旦放水路工事は、全国でも例の少ない上下二連の大口径推進管工事であるため、積極的な広報活動

が必要であると考え、和歌山平野農地防災事業所と相談しつつ小学生向けの現場見学会を開催し、農地防災事業と高度な土木技術のPRに努めました。一回目は、二〇二三年六月に当社工事作業所の主催で地元の小学生を対象に行い、二回目は、八月に日本建設業連合会の主催で小中学生向けの現場見学会「けんせつ探検隊(夏休みシリーズ)」が行われ、地元小学生と保護者が参加しました。子供たちは立坑の上端から推進機をのぞき込んだり、推進管にメッセージを寄せ書きするなど現場体験を楽しんでいます。(写真9、10)



写真9 けんせつ探検隊の様相



写真10 推進管にメッセージを寄せ書き

おわりに

当社とJA紀の里との連携協定による農産物の販売促進と地域活性化の取り組みは、近畿農政局から高く評価され、令和五年度農業農村整備事業等優良工事受注者等の表彰において、優れた地域貢献活動として表彰をいただきました。当社は、これを励みとし、引き続き千旦放水路工事の着実な実施と和歌山平野農地防災事業の推進に貢献するとともに、地域農産物のPR活動を継続して紀の川地域における農産物の消費拡大に貢献していきたいと考えています。

また、全社的にこうした地産国消の取り組みの普及・拡大を心がけ、近年大きな課題となっている食料の安全保障や地域の活性化に微力ながら貢献できれば幸いであると考えています。